

平成19年度当初予算 施策別概要

224 農業を支える生産・経営 基盤の充実

(主担当部：農水商工部)

- | | | |
|-------|---------------------|---------|
| 22401 | 次代を支える担い手の確保・育成 | (農水商工部) |
| 22402 | 農業経営体の自立と集落機能向上への支援 | (農水商工部) |
| 22403 | 生産・経営支援機能の充実 | (農水商工部) |
| 22404 | 農業生産基盤の整備 | (農水商工部) |

< 施策の目的 >

(対象) 農業を職業として選択する人が

(意図) 魅力を持って挑戦できる環境のもと、自立した経営体として活発に農業活動を行っている

< 施策の数値目標 >

施策目標 項目 (主指標)	農業経営体数(認定農業者数および特定農業団体数)	目標値	2,700 経営体
		現状値	1,999 経営体(2005年度)

積極的に経営改善や規模拡大をはかろうとする農業経営体(認定農業者および特定農業団体)の数(農水商工部担い手室調べ)

県の取組 目標項目 (副指標)	自立経営体の農用地利用集積率	目標値	36.0%(2009年度)
		現状値	21.9%(2005年度)

< 現状と課題 >

- ・三重県は、温暖な気候、南北に延びる細長い地形、海と山に囲まれた多様な自然の中で、京阪神、中京等の大消費地が近いという地理的条件のもと、多様な農業が営まれてきました。一方、県内には中規模都市が点在しており、他産業への就業機会にも恵まれていることから若者の流出が進み、農家の兼業化が進んでいます。加えて、農家の高齢化もあり、農村では農業の担い手不足が深刻になっています。
- また、ライフスタイルの変化や国際化の進展などにより農産物価格の低迷が依然続いています。
- ・このような中、県民が安全・安心な食を安定的に享受できるとともに、農業に魅力を感じ、自らの職業として選択し挑戦していくことができる環境を確立していくためには、経営支援のための体制整備のほか、集落営農組織の構築など、農業を支える経営力のある多様な担い手の確保・育成や、環境と調和した効率的で高度な生産基盤の整備が必要となっています。

< 平成19年度 of 取組方向 >

新規就農希望者に対し、就業から地域農業の担い手に至る各段階において、総合的かつ一元的な情報・サービスの提供を行うとともに、認定農業者など自立経営体の確保・育成に努めます。

農業・農村の発展の基礎となる集落機能の再生をはかるため、非農業者も含めた地域内での

話し合いや農地、農業用施設、地域環境の保全に向けた共同活動、地域での環境にやさしい農業の展開への支援を行います。

品目横断的経営安定対策などを踏まえ、市町、農協等と連携し、集落での合意形成に基づく担い手づくり、組織づくりを支援します。

担い手や集落営農へ農業形態が変化していく中で、地域の特性に応じた営農の強化を進めるため、農地の流動化や営農コストの低減が図れる高度な生産基盤を自然環境の保全等に配慮しつつ整備を進めます。

<主な事業>

(新)(舞)農林漁業お仕事ナビゲート事業

【基本事業名：22401 次代を支える担い手の確保・育成】

当初予算額： - 千円 5,000千円

事業概要：新規就業希望者に対し、カウンセリングや若い農業者との意見交換などを行いながら、農業就業への意欲を醸成するとともに三重県への就業を促します。

(新)(重)集落機能再生「きっかけづくり」推進事業

【基本事業名：22402 農業経営体の自立と集落機能向上への支援】

当初予算額： - 千円 5,000千円

事業概要：市町との協働により地域住民自らが地域を知り、考え、行動する機運づくりを展開するとともに、地域のビジョンづくりへの支援を行います。

農業経営体育成普及事業【基本事業名：22402 農業経営体の自立と集落機能向上への支援】

当初予算額： 65,389千円 70,590千円

事業概要：地域における集落営農システムの構築、経営感覚に優れた経営体の育成、担い手農業者の確保・育成などに関する普及活動を展開するとともに、普及指導員の資質向上等をはかります。

経営体育成基盤整備事業【基本事業名：22404 農業生産基盤の整備】

当初予算額： 1,688,695千円 1,110,467千円

事業概要：自立した経営体の育成・確保を重点的に進めるため、大区画整理や農道及び農業用排水施設などの生産基盤を整備するとともに、認定農業者や農業生産法人等への農地集積を行い、農業の構造改革をはかります。

県営かんがい排水事業【基本事業名：22404 農業生産基盤の整備】

当初予算額： 985,320千円 1,115,100千円

事業概要：農業基盤整備の根幹である基幹かんがい排水施設の整備をはかり、水資源の有効利用と労働生産性の向上並びに維持管理の節減をはかります。